

## 解剖学I

《担当者名》 田中真樹 近藤 啓

## 【概要】

解剖学は人体の構造を知るための最も基礎的な学問であり、医療従事者として医療系専門科目を学習していくために不可欠である。人体を形づくる最小単位は細胞で、形態と機能が同じくするものが集まり組織を構成する。組織は一定の機能を行うための器官となり、さらに器官は機能的そして形態的に共通性を有してはたらく器官系がつくられ、個体ができる。本講義では、人体の基本構造を1)骨格系、2)筋系、3)脈管系、4)呼吸器系、5)消化器系、6)内分泌系、7)生殖器官系、8)泌尿器系、9)神経系、10)感覚器系の10系統に分け系統別にそれぞれの名称、形状、構造、機能および位置関係を学び、医学の基礎となる解剖用語を理解する。

## 【学修目標】

- 1) 臨床検査に必要な知識を習得するために、人体の構造を理解する。
- 2) 身体の区分、方向を示す用語について、理解し説明できる。
- 3) 骨と関節の構造、身体の骨格について、理解し説明できる。
- 4) 筋の形と構造、身体の代表的な筋について、理解し説明できる。
- 5) 心臓、血管、リンパ管の構造と血液循環について、理解し説明できる。
- 6) 呼吸器系器官の形状、構造と機能について、理解し説明できる。
- 7) 口腔から肛門までの消化管の位置、形状、構造と機能について、理解し説明できる。
- 8) 消化液を分泌する消化腺の位置、形状、構造と機能について、理解し説明できる。
- 9) 内分泌腺を列挙し位置、形状、構造について説明できる。
- 10) 泌尿器系器官の形状、構造、機能と位置の男女差について、理解し説明できる。
- 11) 男性・女性生殖器の位置、形状、構造と機能について、理解し説明できる。
- 12) 脳と脊髄の構造と機能について、理解し説明できる。
- 13) 脳神経、脊髄神経と自律神経について、理解し説明できる。
- 14) 感覚器の種類、構造、機能について、理解し説明できる。

## 【学修内容】

| 回 | テーマ                                      | 授業内容および学修課題  | 担当者  |
|---|--|--|------|
| 1 | ガイダンス<br>序論<br>人体の構成                     | ・本講義の概要、学習目標、学習内容、学習方法と評価法<br>・身体の区分<br>・身体の方向と断面<br>・細胞の構造<br>教科書：第1章、第2章 | 田中真樹 |
| 2 | 骨格系<br>骨の形状と構造<br>骨の発生と成長<br>関節<br>全身の骨格 | ・骨の作用<br>・骨の形状<br>・骨の発生と成長<br>・関節の構造と種類<br>・頭蓋骨、体幹の骨、上肢と下肢の骨<br>教科書：第3章    | 田中真樹 |
| 3 | 筋系1<br>筋の形と構造<br>筋の補助装置<br>筋の作用と運動1      | ・筋の形<br>・筋の補助装置と付着<br>・筋の作用と運動<br>・頭頸部、胸部、腹部の主要な筋<br>教科書：第4章               | 田中真樹 |
| 4 | 筋系2<br>筋の作用と運動2                          | 背部、上肢と下肢の主要な筋<br>教科書：第4章   | 田中真樹 |
| 5 | 脈管系1<br>血管の構造<br>血液循環<br>心臓              | ・血管の構造<br>・体循環と肺循環<br>・胎生期の循環系<br>・心臓の位置・心臓の弁膜、壁の構造、栄養血管                   | 田中真樹 |

| 回  | テーマ   | 授業内容および学修課題   | 担当者  |
|----|---|---|------|
|    |   | 教科書：第5章- 、  |      |
| 6  | 脈管系2<br>動脈系<br>静脈系<br>リンパ系  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大動脈</li> <li>・脳、顔部と頸部の動脈</li> <li>・腹大動脈、総腸骨動脈</li> <li>・上肢と下肢の動脈</li> <li>・上下大静脈、奇静脈や皮静脈</li> <li>・門脈系</li> <li>・リンパ管の走行</li> <li>・全身のリンパ本幹・リンパ節、脾臓、胸腺などのリンパ系器官</li> </ul> 教科書：第5章- 、 、 、 | 田中真樹 |
| 7  | 呼吸器系<br>鼻腔<br>副鼻腔<br>咽頭<br>喉頭<br>気管と気管支<br>肺                          | 呼吸器系<br>鼻腔<br>副鼻腔<br>咽頭<br>喉頭<br>気管と気管支<br>肺  | 近藤 啓 |
| 8  | 消化器系1<br>消化管の基本構造<br>口腔<br>唾液腺<br>咽頭<br>食道<br>胃<br>小腸<br>大腸           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・消化管の基本構造</li> <li>・口唇、口蓋、歯と舌</li> <li>・耳下腺、顎下腺と舌下腺の位置</li> <li>・咽頭の区分</li> <li>・食道の位置と形状</li> <li>・胃の位置と形状</li> <li>・十二指腸、空腸と回腸の位置と形状・盲腸、結腸と直腸の位置と形状</li> </ul> 教科書：第6章- 、                | 田中真樹 |
| 9  | 消化器系2<br>肝臓<br>胆嚢<br>膵臓<br>腹膜   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・肝臓と胆嚢の位置と形状</li> <li>・膵臓の位置と形状</li> <li>・膵臓の外分泌経路</li> <li>・腸間膜、大網と小網</li> </ul> 教科書：第6章-   | 田中真樹 |
| 10 | 内分泌系<br>下垂体<br>松果体<br>甲状腺<br>上皮小体<br>副腎<br>性腺(卵巣, 精巣)<br>膵臓           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各々の内分泌腺の位置と形状</li> <li>・各々の内分泌腺の構造と分泌されるホルモン</li> <li>・ホルモンの作用</li> </ul> 教科書：第8章   | 近藤 啓 |
| 11 | 泌尿器系<br>腎臓<br>尿管<br>膀胱<br>尿道  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・腎臓の位置と形状</li> <li>・腎臓の構造と尿の産生</li> <li>・尿管、膀胱と尿道の位置と形状</li> </ul> 教科書：第9章   | 近藤 啓 |
| 12 | 生殖器系<br>(男性・女性生殖器)<br>精巣<br>精路<br>付属腺<br>陰茎と陰嚢<br>卵巣<br>卵管<br>子宮<br>膣 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・男性生殖器の位置と形状</li> <li>・精子の産生の概要</li> <li>・精巣下降</li> <li>・女性生殖器の位置と形状</li> <li>・卵子の成熟過程の概要</li> <li>・受精、着床、胚葉形成と胎盤</li> </ul> 教科書：第10章  | 近藤 啓 |

| 回  | テーマ                                      | 授業内容および学修課題  | 担当者  |
|----|--|--|------|
|    | 外生殖器                                     |  |      |
| 13 | 神経系1<br>中枢神経                             | ・大脳、小脳、間脳、中脳、橋と延髄の位置<br>・脊髄の区分<br>・脳脊髄膜<br>・脊髄の伝導路<br>教科書：第11章- 、                | 田中真樹 |
| 14 | 神経系2<br>末梢神経<br>自律神経                     | ・脳神経の名称と種類<br>・脊髄の基本構造<br>・脊髄神経の分布<br>・交感神経と副交感神経<br>教科書：第11章- 、                 | 田中真樹 |
| 15 | 感覚器系<br>視覚器<br>平衡聴覚器<br>味覚器<br>嗅覚器<br>皮膚 | ・眼球の構造<br>・眼球の付属器<br>・外耳、中耳と内耳<br>・味覚器と嗅覚器<br>・皮膚の構造と皮膚感覚に存在する感覚器の種類<br>教科書：第12章 | 近藤 啓 |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験(筆記試験) 85% 小テスト 15%

【教科書】

秋田恵一 他著 「最新 臨床検査学講座 解剖学 第1版」 医歯薬出版 2019年

【参考書】

坂井健雄 監訳 「プロメテウス 解剖学 コア アトラス 第4版」 医学書院 2022年

【備考】

適時、講義資料を配布する。  
クリッカーを使用し、学生の理解度を把握する。  
Google Form を利用して学修課題を提示する。

【学修の準備】

予習は指定した教科書の該当する範囲を、十分に読んでおくこと(80分)。  
復習はノート、教科書および配付資料を活用し、理解を深めること(80分)。

【ディプロマポリシーとの関連性】

(DP2) 臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

【実務経験】

田中真樹（歯科医師）、近藤 啓（臨床検査技師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、解剖学の基礎的知識を講義する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している